タンチョウと共存できる流域づくり協議会 設立趣旨

平成 28 年度に設立された「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」は、千歳川遊水地群の一つである舞鶴遊水地を軸として、多様な主体の連携と協働により、にぎわいがあり、経済の好循環が実感できる地域の実現に取り組んできました。舞鶴遊水地では、令和 2 年に空知管内では 100 年以上ぶりとなるタンチョウの繁殖が確認され、以降毎年繁殖が確認されています。

千歳川遊水地群は、治水事業として千歳川流域の 4 市 2 町に整備され、令和 2 年度にすべての遊水地の供用が開始されました。洪水時の治水機能に加え、平常時には野生生物の生息場や環境学習の場などとして利用可能な遊水地は、自然環境が有する多様な機能を活用できるグリーンインフラであり、近年ではタンチョウの飛来増加が見られています。

現在、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブを実現し、自然と共生する社会を目指す動きが国内外で進められております。石狩川流域においても、令和 5 年度、石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会が学識者、石狩川流域 46 市町村、行政機関、関係団体等の参加のもと設立されました。

こうしたネイチャーポジティブ実現の動きや、石狩川流域におけるタンチョウの生息範囲拡大・飛来増加や繁殖といった背景を踏まえ、これまでの「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」における舞鶴遊水地を軸とした取組を、千歳川流域を軸とする石狩川流域における取組へ進化し、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」と連携・協働を図りながら、タンチョウと地域生活・産業との共存や、タンチョウを指標とする生態系ネットワークの形成に取り組み、持続可能な地域づくり及び健全な生態系ネットワークの形成に資するため、「タンチョウと共存できる流域づくり協議会」として発展的に改組することといたします。